

元氣のヒント

◁13▷



四宮 加容

德島大学病院眼科

子どもの視力

重要な3歳児健診

「弱視の疑い」早期治療を

上がりにくい眼
瞼下垂などがあ
ります。視力の

発達は一六八歳で止まってしまつので、なるべく早く治療する必要があります。

子どもの視力検査の機会
は、三歳児健診、就学時健
診、就学以降の学校健診があ

新生児	0.01
3ヵ月	0.02
1歳	0.2
2歳	0.5
3歳	0.8
5歳	1.0

子どもの視力の発達

数年前に亡くなった徳島市の
が、眼鏡をかけず悪い視力
のままで大きな字がすくなく
読めず、弱視を診断された
場合、原因にわたった治療を
行います。例えば眼鏡をかけ

おかしい。瞳が白く見える
きらっと光る、まぶしがる、
斜めにものを見る、などの症
状がある場合は、三歳児健診
を待たずに早く眼科を受診し
ましょう。

● 徳島市の3歳児健診の場合 ●

- 時期…3歳6カ月
- 家庭に送付される絵指標(右のイラスト、原寸大)を用い、2.5歳から離れて家人が検査を行う
- 正答率が50%以下の場合、健診会場で保健師が再検査を行う
- 再検査の結果正答率が100%未満の場合、要精密検査となる
- まぶしがる、兄弟が弱病など心配なことがあれば要精密検査となる



診に視力検査がなく、就学時健康で初めて弱視と診断された。六歳から治療を開始する子どもが多くなりました。現在は、三階良健診で弱視の子とすることも早期に発見することができ、三十四歳で治療を開始できたことになりました。そのため以前より治療期間が短くなり、治療後の視力も向上しています。

健診で見逃されやすいのは、片目の弱視です。片目が良く見えているので不自由なそぶりはありません。視力検査は片目ずつ測定しますが、視力が悪い方の測定時に良い方の目を十分隠さず、すぐ開くからといっている場合もあるのご注意ください。三歳、

六歳の健診
は必ず受け
て、必要が
あれば適切